

(2) だいず薬剤一覧

RPA

病害虫名	防除時期	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	備考
紫斑病	播種前	キヒゲンR-270アブル	チラム水和剤	M3		乾燥種子1kg 当り原液20mL		は種前	塗沫処理	1回	
		クルザ-MAXX	チアトキサム・フルジ・オキソニル・メタラキシルM水和剤	4A,1 2,4		原液	乾燥種子1kg当り8mL	は種前	塗沫処理	1回	
	開花期後 20～30日	アミスター-2070アブル	アゾキストロピン水和剤	11		2000～3000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤	1,10		1000倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	
		ファンタジスタアブル	ビリベシカルア水和剤	11		1000～2000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	
						16倍	0.8%/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内	
		アミスターレボンSE	イトフェンブ・ロックス・アゾキストロピン水和剤	3A,1 1		1000倍	100～400%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	
	トライアアブル	テブフロキソ水和剤	U16		1000倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内		
8倍					0.8%/10a	収穫14日前まで	無人航空機による散布	2回以内			
開花期後 15～30日	Zボルト-粉剤DL	銅粉剤	M1		3kg/10a		-	散布	-		
葉焼病	初発時 (7月下旬頃)	フェスティバルC水和剤	ジメトモル・銅水和剤	M1,4 0		600倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	
茎疫病	播種前	クルザ-MAXX	チアトキサム・フルジ・オキソニル・メタラキシルM水和剤	4A,1 2,4		原液	乾燥種子1kg当り8mL	は種前	塗沫処理	1回	
アブラムシ類	播種前	クルザ-FS30	チアトキサム水和剤	4A		乾燥種子1kg 当り原液6mL		は種前	塗沫処理	1回	
		クルザ-MAXX	チアトキサム・フルジ・オキソニル・メタラキシルM水和剤	4A,1 2,4		原液	乾燥種子1kg当り8mL	は種前	塗沫処理	1回	
	生育期	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		2000～3000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	
		マラソン粉剤3	マラソン粉剤	1B		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
タネバエ	播種前	クルザ-FS30	チアトキサム水和剤	4A		乾燥種子1kg 当り原液6mL		は種前	塗沫処理	1回	
		クルザ-MAXX	チアトキサム・フルジ・オキソニル・メタラキシルM水和剤	4A,1 2,4		原液	乾燥種子1kg当り8mL	は種前	塗沫処理	1回	
ネキリムシ類	播種前	クルザ-FS30	チアトキサム水和剤	4A		乾燥種子1kg 当り原液6mL		は種前	塗沫処理	1回	
		クルザ-MAXX	チアトキサム・フルジ・オキソニル・メタラキシルM水和剤	4A,1 2,4		原液	乾燥種子1kg当り8mL	は種前	塗沫処理	1回	
カメムシ類	若莢～子実肥大期 8～9月	アルパリン粉剤DL	ジメテフラン粉剤	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内	
		エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		カスケード乳剤	フルフェノキサロン乳剤	15		4000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
						32倍	0.8%/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内	
		スタークル液剤10	ジメテフラン液剤	4A		1000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
						8倍	0.8%/10a	収穫7日前まで	空中散布	2回以内	
						8倍	0.8%/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内	
		スタークル粉剤DL	ジメテフラン粉剤	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内	
		スミチオン粉剤3DL	MEP粉剤	1B		4kg/10a		収穫21日前まで	散布	4回以内	
		ダントツH粉剤DL	クロチアジメチン粉剤	4A		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
	トレボン乳剤	イトフェンブ・ロックス乳剤	3A		1000倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内		
	トレボン粉剤DL	イトフェンブ・ロックス粉剤	3A		-	4kg/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	豆類(種実)	
	アミスターレボンSE	イトフェンブ・ロックス・アゾキストロピン水和剤	3A,1 1		1000倍	100～400%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内		
					8倍	800mL/10a	収穫21日前まで	無人航空機による散布	2回以内		
若莢～子実肥大期 8月	ダイヤジン粒剤5	ダイヤジン粒剤	1B		4～6kg/10a		収穫30日前まで	散布	4回以内		
	ミネクトエクストラSC	シアントラニプロール・ルフェエロン水和剤	28,1 5		10000～12000 倍 40～80倍	100～300L/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内		
シロイモシマダ ライメイカ	若莢伸長期	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1500～2000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		ダイヤジン粒剤5	ダイヤジン粒剤	1B		4～6kg/10a		収穫30日前まで	散布	4回以内	
		トレボン乳剤	イトフェンブ・ロックス乳剤	3A		1000倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	
		バーマチオン水和剤	フェンハレト・MEP水和剤	1B,3 A	劇	1000～2000倍	100～300%/10a	収穫21日前まで	散布	3回以内	
		トレボン粉剤DL	イトフェンブ・ロックス粉剤	3A		-	4kg/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	豆類(種実)
マシクイガ	子実肥大初期 8月	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		ミネクトエクストラSC	シアントラニプロール・ルフェエロン水和剤	28,1 5		10000～12000 倍 40～80倍	100～300L/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	

病害虫名	防除時期	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	備考
タ'イ'サヤマ ハ'エ	開花終期～子実 肥大初期 8月上旬～中旬	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		8倍	800mL/10a	収穫21日前まで	無人航空機による散布	4回以内	
						1000倍	100～300% _{10a}	収穫21日前まで	散布	4回以内	
		ダ'イ'ジ'ノ'ン'粒'剤'5	ダ'イ'ジ'ノ'ン'粒'剤	1B		4～6kg/10a		収穫30日前まで	散布	4回以内	
ウ'コ'ノ'メ'イ'ガ'	7月下旬～8月 はじめ	ダ'ン'ツ'ク'粉'剤'DL	ク'ロ'チ'ア'ニ'ジ'ン'粉'剤	4A		4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
		ア'レ'バ'ソ'ン'フ'ロ'ア'ア'ル'5	ク'ロ'テ'ト'ラ'ニ'リ'ア'ロ'ル'水'和'剤	28		4000倍	100～300% _{10a}	収穫7日前まで	散布	2回以内	
						16～32倍	0.8% _{10a}	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内	
		ヨ'バ'ル'フ'ロ'ア'ア'ル	テ'ト'ラ'ニ'リ'ア'ロ'ル'水'和'剤	28		5000倍	100～300% _{10a}	収穫7日前まで	散布	2回以内	
						50倍	1.6% _{10a}	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内	
ハ'ス'モ'ン'ヨ'ト'ウ'	生育期 若齢幼虫期	エルザン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100～300% _{10a}	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		トレボ'ン'乳'剤	エ'ト'フ'ェ'ン'ア'ロ'ク'ス'乳'剤	3A		1000倍	100～300% _{10a}	収穫14日前まで	散布	2回以内	
		トレボ'ン'粉'剤'DL	エ'ト'フ'ェ'ン'ア'ロ'ク'ス'粉'剤	3A		-	4kg/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	豆類(種実)
		ア'レ'バ'ソ'ン'フ'ロ'ア'ア'ル'5	ク'ロ'テ'ト'ラ'ニ'リ'ア'ロ'ル'水'和'剤	28		16～32倍	0.8% _{10a}	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内	
						4000倍	100～300% _{10a}	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		ベ'ネ'ビ'ア'OD	シ'ア'ン'ト'ラ'ニ'リ'ア'ロ'ル'水'和'剤	28		2000～4000倍	100～300% _{10a}	収穫7日前まで	散布	3回以内	
		マトリ'ク'ク'フ'ロ'ア'ア'ル	ク'ロ'マ'フェ'ジ'ト'水'和'剤	18		2000～3000倍	100～300% _{10a}	収穫前日まで	散布	3回以内	
						8～16倍	800mL/10a	収穫前日まで	無人航空機による散布	3回以内	
ハ'タ'ニ'類	生育期	マ'ラ'ソ'ン'粉'剤'3	マ'ラ'ソ'ン'粉'剤	1B		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
フ'タ'ス'ジ'ヒ'メ'ハ'ム'シ'	播種前	ケ'ル'ザ' -FS30	フ'ア'メ'キ'サ'ム'水'和'剤	4A		乾燥種子1kg 当り原液6mL		は種前	塗沫処理	1回	
		ケ'ル'ザ' -MAXX	フ'ア'メ'キ'サ'ム'・'フ'ル'ジ'オ'キ'ソ'ニ'ル'・'メ'タ'キ'シ'ル'M'水'和'剤	4A,1 2,4		原液	乾燥種子1kg当り8mL	は種前	塗沫処理	1回	
	8月下旬 第2世代発生期	ア'グ'ロ'ス'リ'ン'乳'剤	シ'ベ'ル'メ'ト'リ'ン'乳'剤	3A	劇	2000倍	100～300% _{10a}	収穫7日前まで	散布	3回以内	
		ア'ル'バ'リ'ン'粉'剤'DL	ジ'ネ'フ'ラン'粉'剤	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内	
		ス'タ'ー'ク'ル'液'剤'10	ジ'ネ'フ'ラン'液'剤	4A		1000倍	100～300% _{10a}	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		ス'タ'ー'ク'ル'粉'剤'DL	ジ'ネ'フ'ラン'粉'剤	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内	
		ダ'ン'ツ'ク'粉'剤'DL	ク'ロ'チ'ア'ニ'ジ'ン'粉'剤	4A		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	

(3) だいでず注意事項

紫斑病

- ・子実肥大期に雨が多いと多発する。
- ・種子伝染するので、優良種子を使用しクルーザーMAXXによる種子消毒を行う。
- ・耐性菌が発生している。
- ・耐性菌の発生を抑制するために、系統の異なる2剤を選択し、開花後20日目とその10日後（開花後30日目）に体系で散布する。
- ・アミスター20フロアブルは、開花後20～30日目の1回散布でも効果がある。

葉焼病

- ・初発時に効果の高いフェスティバルC水和剤を施用し、病害の蔓延を防ぐ。
- ・発生が多いほど小粒比率が高くなり、減収する。
- ・里のほほえみで発生が多い。

黒根腐病

- ・排水不良田での発生が多く、一度発生すると根絶することが困難。
- ・立枯れた株を抜くとゴボウ根になっており、手応え無く抜ける。株元に赤い子囊殻が発生することがあり、発生が広がると減収する。
- ・発生した圃場は3年以上水稻を作付けし、菌の密度を下げる。

カメムシ

- ・8月20日頃と9月10日頃の2回防除すると効果が高い。
〔耕種的防除〕
- ・圃場周辺を除草する。

ダイズサヤタマバエ

- ・山間、山沿いで発生が多い。

ウコンノメイガ

- ・葉が巻きはじめる若齢幼虫期に防除する。
- ・山間、山沿いで発生が多い。

ハスモンヨトウ

- ・早期発見に努め、早めに防除する。
- ・白変葉が見え始めた時に、分散前に防除する。

(1) だいず病害虫の要防除水準

カメムシ類の要防除水準

圃場内での調査を行い、カメムシ類の発生状況を的確に把握した上で、要防除水準に基づく効率的な防除を実施し、環境負荷の少ない防除を推進する。

1 要防除水準

8月下旬（圃場侵入期）は100茎あたり0.3頭以上、9月中旬（発生最盛期）は100茎あたり4.0頭以上の場合は防除する。

2 調査方法

8月下旬と9月中旬に、1圃場あたり100茎ずつ3か所の見とり調査を行う。

フタスジヒメハムシの要防除水準

1 要防除水準

8月下旬（第2世代成虫発生最盛期）に払い落としを行い、1.5m、2条当たり約70頭以上の場合は直ちに防除する。

2 調査方法

長さ150cm、幅80cmの払い落とし用シートを条間に広げてシートの両端から2人で両側の株をたたき、成虫をシート上に落とす。1圃場につき、3か所行う。

葉焼病の要防除水準

1 要防除水準

開花期に発病葉率16.5%以上は、ただちに防除する。

2 調査方法

開花期に圃場内で発生が多い場所を選び、10株以上の全葉数および発病葉数を調べ、発病葉率を求める。